

令和7年度 富岡東地域ケアプラザPDCAシート_公表用（事業計画書、事業報告書、事業実績評価）

—総括表—

◆ 事業計画

地域の現状と今後の方向性

担当エリアは富岡第二地区と金沢シーサイドタウン地区はそれぞれに65歳以上の人口割合が増え、今後急速に高齢化が進行する見込みである。介護予防の取り組みは引き続き重要であるが、それでも地形や住居の制約、疾患等から移動が困難になり、地域社会から孤立する方が増えるリスクが高い地域であると思われる。
地域支援の担い手の発掘と見守りを兼ねた気軽に立ち寄れる居場所をつくっていくことが必要であると思われる。

今年度の重点的な取組

新規
継続

—具体的な取組内容—

<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	エリア内の誰もが気軽に立ち寄れる場所に、地域住民の居場所となる拠点を、住民主体で継続的に設置できるよう調査、交渉を行っていく。
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	認知症の方や家族から話を聞く機会を設けるなど「認知症を前提とする社会」についての普及啓発を行い、認知症は「誰もに関わること。誰もが関わること」ということを意識して、日常の中でできることを一緒に考える機会を設ける。
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	毎月の会議等で地域課題について情報交換を行い、地域ケア会議の議題として適切なケースを検討する。
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	施設利用団体だけではなく、様々な来館者や地域の会議などに出席した際にもコミュニケーションを積極的にとり、地域ニーズの把握に努める。
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	基幹相談支援センターや後見の支援室等との連携事業を通じて、高齢化していく障害者の権利擁護につなげていく。

◆ 事業報告・事業実績評価

振り返り

今年度は年度途中の所長交代により、行政ならびに関係機関の皆様には多大なるご心配とご不便をおかけいたしました。しかし、この変化の中でも「多職種による内部連携」を基盤としたことで、ケアプラザとしての組織力は着実に向上しております。外部ネットワークにおいても、民児協との協力体制の再構築や、新たな関係機関との連携が生まれるなど、地域ニーズへの多角的なアプローチが可能となりました。結果、移動困難に伴う孤立防止に向けた居場所づくりや、高齢障害者の権利擁護といった複雑な課題に対し、これまで以上に迅速かつ専門機関と手を取り合った「深い」支援を展開できております。次年度に向けては、この強固な連携をさらに洗練させ、住民主体の拠点運営支援や、制度の狭間にいる方々へのセーフティネット強化をより推進してまいります。変化を力に変え、地域に信頼されるケアプラザとして、誰もが住み慣れた場所で安心して暮らし続けられる共生社会の実現に向け、職員一丸となって邁進いたします。

区からのコメント

カフェと連動した医療相談日や出張相談会の工夫により、子育て世代を含む多様な住民が相談しやすい雰囲気を醸成し、地域の安心感向上に寄与している点が評価できます。また、5職種で地域定例会に継続参加し「いま」の課題を丁寧に把握するとともに、広報紙の配架先拡大や、外国籍・ワーキング世代等への届け方も視野に入れた取り組みが進められています。8施設が集う施設連絡会の新設や子育て分野の協働で横のつながりを強化するなど、ネットワークの広がりも見られました。

認知症事業について、映画やVR体験など、幅広い年代に向けた啓発活動を工夫して実施されています。高齢化が進むエリアにおいては、権利擁護に関する潜在的なニーズはあると考えられるため、ぜひ様々な地域のニーズを拾い上げ、ケアプラザにおける事業展開に反映していただくことを期待します。民生委員・ケアマネジャーとの連携強化や医療機関とのネットワーク構築も着実に進んでいます。今後も協働してより良い支援体制を築いていければ幸いです。